

グループ名 ・代表者名	六ヶ所みらい映画プロジェクト 島田 恵	助成金額	30 万円
連絡先など	映画専用窓口電話 070-6523-8559		
助成のテーマ	福島原発事故に伴う避難区域の人々の生活環境の変化と意識調査、 及び福島原発事故に伴う六ヶ所村民及び青森県民の意識調査		

【調査研究の概要】

・福島原発事故の社会的影響を調査、取材、研究し、科学的根拠と数字データによって裏付けし、それらを映像によって広く明らかにすることがこの調査研究の狙いである。とりわけ避難を余儀なくされた人々、放射能に脅かされる生活を強いられている人々、土地と密接に結びつく農業、酪農に携わる人々の生業の変化、家族共同体、地域共同体の変容、人々の心や意識にどう影響を与えたのか、を明らかにしたい。

・また、青森県下北半島には、六ヶ所村に再処理工場や放射性廃棄物貯蔵施設、東通原発、むつ市に建設中の使用済み核燃料中間貯蔵施設、建設中の大間原発など、多くの原子力施設が立地、または建設されている。青森県やこれらの施設を抱える地元の人々の意識は、福島原発事故の後、どう変化したか。その結果、原子力行政や原子力施設の建設にどう影響を与えたか、また今後どんな影響を与えるかを調査、研究し、明らかにする。

・こうした調査研究の成果は、映像という媒体によって一般に広く伝える。映像表現により、調査、研究の成果を広く一般市民に伝えることができ、かつ後世に伝える役目を果たすものと期待される。

【調査研究の経過】

・2011 年 3 月 東日本震災後、被害を受けた青森県南部、岩手県北部の調査、取材、撮影。

・2011 年 4 月 青森反核燃の日取材、撮影。福島県飯館村、南相馬市、川内村、いわき市、三春町などの農家、肉牛、障害を持つ人や高齢者の人たち、20 キロ圏周辺の調査、取材、撮影。

・2011 年 5 月 六ヶ所村チューリップ祭り、村民インタビュー、田植えなど取材、撮影。大間原発反対集会取材。

・2011 年 6 月 青森県弘前市の「放射能から子どもを守る母親の会」250 回目デモ取材。

・2011 年 7 月 福島お母さん、子供たち取材、撮影。

・2011 年 8 月 福島のお盆や変わってしまった夏の風景の撮影。子供たちの政府交渉取材。下北原子力半島撮影。

・2011 年 9 月 福島のお母さんと子供たち撮影。脱原発 1000 万人アクション関連の取材、撮影。

【現在までの成果と今後の展望など】

・まだ断片的ではあるが、これまで福島と青森の多くの方の取材をすることができた。また、多くの貴重なテーマを見つけることができた。これを今後どのようにつなげ深めていくか、映画としてどのように編集をしていくかが今後の課題である。

資金計画の概要 (金額単位: 千円)			充当する資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	東京⇄福島 東京⇄青森 交通費 車代謝礼 ガソリン代 宿泊費	3,000	300	700	2,000
資料費					
機材・備品費	SDカード代 ビデオカメラ備品	100			100
会議費	会場費 資料、レジュメのコピー代	50			50
印刷費	フライヤ印刷 封筒印刷	100			100
協力者謝礼など	謝礼、おみやげ、食事代	100			100
外部委託費	カメラマン謝礼 映像編集者謝礼	1,000			1,000
その他	編集スタジオ及び編集機材使用料 電話代 郵送料	1,150			1,150
合 計		5,500	300	700	4,500

参考文献 (ウェブサイトや書籍、成果物など)

・ <http://www.rokkashomirai.com> ・ 島田恵写真集「六ヶ所村 核燃基地のある村と人々」(高文研)

映画 福島 六ヶ所 未来への伝言

高木基金中間報告会



- * 福島第1原発から20キロ圏内は立ち入り禁止となっている。国道6号線の楢葉町で。



- * 4月29日、飯館村に東電副社長以下5人が謝罪におとずれた。村民が次々と意見や不満をぶつけた。



- * 飯館村の高校生の女の子は、将来自分が子供を産めなくなったら補償をしてくれるのか、と問いかけた。



- * 飯館村での謝罪集会が終わっても、「この苦しみがあなたたちにわかりますか」と、東電社員たちに詰め寄る村民。



- * 飯館村で畜産をやっていた山田剛史さん。妻と息子夫婦を避難させ、自分だけ村に残り、牛の世話をしていた。(2001年5月)



* 郡山市に住む伊藤智恵子さん。6歳と1歳半の子供のお母さん。
夏休みを利用して、母子だけで長野県松本市に保養に来た。



* 智恵さんの娘の小学校1年生の咲良ちゃん。
2学期が始まり、外で思いっきり遊んだ松本から郡山へ帰ってきた。



* 「子どもの声を政府に届けよう！」と、福島の子どもたちが、寄せ書きを持ってやってきた。衆議院議員会館で政府側と交渉した。



* 青森県六ヶ所村の、六ヶ所原燃PRセンターから見た核燃料サイクル基地の再処理工場。



* 六ヶ所村反対運動を続けてこられた菊川慶子さん。
19年間開催してきたチューリップ祭りは、今年で最後になった。



* 青森県蓬田村の松本淳司さん(手前)。かつて、農協青年部の委員長として反対運動の先頭に立ってきた。福島事故に大ショックを受けたという。



* 青森県の生協での勉強会で、原発の危険性をちゃんと知らなかったと話すお母さん。



* 青森県弘前市の「放射能から子どもを守る母親の会」は、チェルノブイリ後から、核燃に反対してデモをし、今年6月で250回目を迎えた。



* 大間原発に反対して土地を売らなかった故熊谷あさこさんの娘の小笠原あつ子さん。残念だけど福島後も、大間は変わらない、と言う。



* かつて六ヶ所村八森地区で酪農を営んでいた佐々木敏さん。「六ヶ所から原子力を取ったら、果たしてやっていけるのか」



* 9月15日、イギリスからの返還高レベル放射性廃棄物が六ヶ所村に陸揚げされた。原発は止まっても、核のゴミは運び込まれる。



* 9月11日、経産省を人間の鎖で取り囲んだ。9月19日は5万人集会在明治公園で行われるなど、全国で脱原発の動きは活発だ。